



▶ 問い合わせ 〓市民協働推進課 ☎0287(62)7019

市民編集委員/阿久津一志 菊地千恵 鈴木房代 柳場美枝子 君島尚美

「NPO法人ゆめがくどう」後藤政人理事長インタビュー

働く親にとって必要不可欠な放課後児童クラブ。今回は「NPO法人ゆめがくどう」の後藤理事長に、未来を担う子どもたちを預かる学童保育について話を聞きました。

NPO法人ゆめがくどう運営方針 ＊3つのめあて＊

- 1 子どもがまんなか、放課後児童クラブ
- 2 通いがいがあり、子ども同士が育ち合う放課後児童クラブ
- 3 共に生きる仲間づくりのできる放課後児童クラブ

ごとう まさと
後藤 政人 さん

「ゆめがくどう」の後藤政人理事長。自身も4人の子どもを児童クラブに通わせていた。



「ゆめがくどう」を設立したいきさつは？

市内の児童クラブは、黒磯、西那須野、塩原の3つの地域で保護者などによって運営されてきましたが、保護者の負担が大きく、運営が難しい状況でした。そこで、児童クラブの運営を一つにまとめ、引き受ける形で設立されたのが「NPO法人ゆめがくどう」です。平成28年6月の設立以降、バラバラだった運営方針や負担金などを統一し、すべての児童クラブで同じ保育ができるよう、環境の整備を行うことがとても大変でした。

「ゆめがくどう」の課題は？

若い職員を増やしたいと考えていますが、ベテランもいないと成り立ちません。また、理想としては一人の支援員に一つのクラブを長く担当させたいところですが、新人教育などの都合上、人事異動を行う必要もあり、なかなか難しいところです。

高校時代に児童クラブでアルバイトをしていた子が卒業後も働いてくれており、うれしい限りです。「ゆめがくどう」で育った小学生も、いつか支援員になってくれたらいいなと思っています。

コロナ禍での子どもへの対応は？

コロナ禍でも児童クラブは休所とはならず、当初はどうすればいいのか悩みました。「ゆめがくどう」には「3つのめあて」があり、それを心掛けながら、とにかく感染させないように気を付けました。マスクが無い時期にはマスクを購入して支援員に配ったり、子どもたちは机を離して勉強したり、手洗い練習スタンプを押して手を洗ったりなど、各クラブで工夫を凝らし、情報を共有して対策しています。

どんなときも、子どもたちの居場所を守り続けていきたいですね。

「NPO法人ゆめがくどう」では賛助会員を募集しています。輝く子どもの未来に、支援・協力をお願いします。

「ゆめがくどう」支援員

菊地千恵さんのお話

同年齢や異年齢の仲間と遊ぶことができる放課後児童クラブ。子どもたちには、今しかない「子ども時代」を思う存分遊ぶことができるように「時間・空間・仲間づくり」を支援しています。また、子どもの意見「つぶやき・想い・願い・声なき声」をたっぷり聞いてあげることが大切になっています。



みんなとは？

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合って、その個性と能力を十分に発揮することができる社会を目指す情報コーナーです。



バックナンバーはこちら